

協働して課題解決に
取り組む体験

社会の様々な問題について、自分にできることを考え、行動しよう

小学校

小金井市立本町小学校

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

概要

「環境教育」、「防災教育」、「キャリア教育」において、専門家など様々な方を講師として招聘して講話いただくとともに、体験活動を実施し、自分にできることを考え、実践する活動の充実を図る。

育成を目指す資質・能力

- 「環境」「防災」「キャリア」等の視点で体験活動を実施し、児童の課題発見・解決力の育成を目指す
- 児童が社会の問題を自分事として捉え、自分にできることを考え実践しようとする態度の育成を図る

年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月
各教科等				体験① さかなクンの講演をとおして環境について学ぶ	「授業：総合（環境）」 SDGsに関連させ自分にできることを考える	体験② 能登の方との交流をとおして防災について学ぶ	「授業：総合（防災）」 地域の方と防災サミットを開く	体験③ 高専の方とのワークショップをとおしてこれからの時代に必要とされる力を学ぶ	「授業：総合（キャリア）」 これからの生き方について考える	

体験①　概要

「さかなクンと海のSDGｓについて考えよう」（１～３年・４～６年）

児童がSDGｓの目標に関心をもち、主体的に行動する気持ちを高めるために、さかなクンを講師として招聘し、環境に関する講演を聞き、交流する体験活動を行った。この体験をきっかけに「SDGｓ14.海の豊かさを守ろう」を身近な問題として捉え、自分にできること（地域の川や玉川上水、公園等の清掃）を実践しようとする意欲をもつとともに、環境保全に関する考えを深めた。

体験②　概要

「防災サミットを開こう」（５年）

事前に地震についての調べ学習を行い、地域の一員として自分たちにできることを考えた。この学びを実際に能登で被災された方や復興の支援をしている方を招聘し、直接伝えるとともに、アドバイスや御自身の経験を伺う体験活動を行った。体験活動により深まった学びを生かして、保護者や地域の方と一緒に防災サミットを新たに開催した。

体験③　概要

「未来をつくる力について考えよう」（６年）

徳島にある高専の立ち上げに関わった方やスタッフの方を講師として招聘し、「テクノロジーを活用して、新しい発明品を考える」というワークショップを行った。また、卒業を前に、自分の生き方について深く考えるきっかけとするため、「未来をつくる力」というテーマで御講演いただき、これからの時代に必要な力とそれを育むために必要なことについて考えた。

体験　１回目

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

計画・準備・事前学習



・児童がSDGｓに関心をもち、主体的に行動する力を養うために、児童も知っている専門家を招聘し、講演を聞かせたいと考え、講師選定や連絡、調整を行った。
・この体験をきっかけに「SDGｓ14.海の豊かさを守ろう」を身近な問題として捉え、自分にできることを実践する活動につなげられるよう計画を立てた。

【学校・教員】



・事前に、SDGｓ全17の目標に着目し、食事を満足に取れなかったりする子供がいることや海や陸の豊かさが脅かされたりしていること等について興味・関心をもった。
・さかなクンの講演があることを知り、「SDGｓ14.海の豊かさを守ろう」を身近な問題として捉え、自分にできること考えようとする気持ちを高めた。

【児童】

取組・実践

○さかなクンの講演

１～３年生と４～６年生の２部に分かれ、さかなクンを講師に招聘し講演を聞いた。講師が魚を好きになったきっかけや、当日の給食のメニュー（鮭）の生態等の話を楽しく聞いた。海の環境問題の話では、人間が出している多くのごみが、魚たちに大きな影響を与えていることを知り、自分たちにできることは何かを考えた。

講演の後半には、講師によるパフォーマンスの披露もあり児童はびっくりしながらも、環境やSDGｓについて楽しく学ぶとともに、関心をもつことができた。





○自分たちにできることの実践

６年生は総合的な学習の時間に、自分たちにできることを考え、行動するという学習を行った。身近な川や上水を清掃することで、「SDGｓ14.海の豊かさを守ろう」につながると考え、２回に分けて、清掃活動に出かけた。

児童は、活動の目的を確認し、張り切って川に出かけ、活動を行った。活動中にお礼を言われ、充実した良い時間になった。また、別の日には近所の公園の清掃をした後に、玉川上水の両岸の清掃も行った。

予想よりもごみが多く落ちていたことに児童はびっくりし、自分たちの活動で、少しでも苦しむ魚が減り、海の豊かさにつながるとよいと考えた。





事後・振り返り

さかなクンの話を通して、プラスチックごみが魚を苦しめ、生態系に影響を及ぼしていることを再確認し、自分たちに何かできることはないか考える姿が見られた。
「まずは身近な川や上水の清掃をすることで、海の環境を少しでも良くしたい。」「自分たちにできることは少なくても、みんなで取り組めば大きな力になる。」と振り返り、環境について考えを深めていた。

さかなクンの講演から、多くのことを学びました。特に身近な川の清掃活動は、皆さんの主体的な取組の成果でした。小金井市の「ハチドリプロジェクト」を体現した良い取組でした。





さかなクンの話から、魚が大好きな様子がとても伝わってきたよ。特に55秒（ぎょじゅうぎょびょう）の即興デッサンはびっくりした。僕も好き度では誰にも負けないようなものを見付けるぞ！

体験　２回目

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

・児童が主体的に学習を進められるように、事前に児童が連携しようとする関係各所を検討し、学習の計画を立てた。
・児童が自分の事として防災について考えられるように、実際に被災した方やボランティアをされている方との連絡調整を行い、交流の場を設定した。



【児童】

・夏季休業中に出された「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」をきっかけに、防災について調べ、地域の一員として自分にできることを考える学習を事前に行った。
・能登の方と交流したことを生かして、防災サミットを開催することを知り、友達と協力しながら自分で決めたテーマを追究した。

取組・実践

○能登の方との交流

能登で被災され、復興に尽力されている方や、ボランティアとして能登に入っている方を講師として招聘し、交流する体験活動を行った。児童は事前に学習し追究している、「避難所運営」、「防災グッズ」、「ハザードマップ」「非常食」等のテーマについてプレゼンを行った。児童の発表の後、講師から、児童の学習に対する感想やアドバイスや御自身の体験談を伺った。少人数に分かれて、直接講師と具体的な話をすることができ、児童は多くのことを学ぶことができた。





○炊き出し体験

追究してきた防災に関するテーマを改めて振り返り、防災サミットに向けて学習がさらに深まるように、児童が主体的に関係各所に連絡を取り、断水したという設定で炊き出し体験を実施した。市の地域安全課や配水所、近隣の方等と連携するとともに、保護者や地域の方にも参加していただき、充実した体験活動となった。



○防災サミット

学校公開日に合わせて、防災サミットを開催し、児童の学習成果を発表する時間を設けた。地域全体で防災について考えるきっかけとなった。



事後・振り返り

実際に被災した方やボランティアをされている方の話を聞くことで、防災について自分たちで課題解決を進めてきたことについて真剣に振り返る児童の姿が見られた。

また、一歩踏み込んで自分たちにできることを実践し、その成果を防災サミットで保護者や地域の方に伝えようというモチベーションが高まっていた。

能登の方との交流を生かして行った炊き出し体験では、地域の方とも連携し、充実した活動ができました。防災サミットでも、保護者や地域の方が真剣に話を聞いており、みんなの発表が大人の意識を高め、地域全体に貢献する学習になりました。





復興には、人の協力、努力が大切だと思った。聞いた話を防災サミットで届けたい。調べるだけじゃ分からないことがよく分かってとても参考になった。この経験を生かしてよりよい発表をしたい。

体験　３回目

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

・卒業を目前に控えた6年生に向けて、自分の生き方について深く考えるきっかけとなるよう、講師の選定と調整を行った。
・選定した講師と連絡調整し、ワークショップと講演をセットにした体験活動の場を設定した。



【生徒】

・事前に、講師や講話に関わる高専について調べる活動を行った。
・高専等に調べる中で、今まで知らなかった進路先や学校を知り、児童は新鮮な驚きを覚え、当日への期待感を高めていた。

取組・実践

〇ワークショップ

クラスに分かれ、「テクノロジーを活用して、新しい発明品を考える」というテーマでワークショップを行った。①自分が好きなものを挙げる②『VR』や『ドローン』、『GPS』などが書かれたテクノロジーカードを引く③両者を足した造語を考える④造語から新しいモノや生活を考える⑤グループごとに発表する⑥感じたことを共有する⑦新しいモノやコトが生まれる過程を学ぶという流れで活動が進み、グループごとに協力してアイデアを出し合いながら、小学生ならではの柔軟な発想で楽しい発明品を意欲的に考える姿が見られた。





〇講演

「未来をつくる力」をテーマにした講演をしていただいた。これからの時代に必要な力とそれを育むために必要なことや、高専で大切にされている考え方「β Mentality」（失敗を怖れる必要は私たちの学校にはありません。すべては成功までの挑戦の過程だからです。欠点のない完成形を最初から求めるのではなく未完成のβ版を次から次へとつくりだし、あらゆる角度から検証し、想像以上に良くしていく。その姿勢こそ私たちの目指すVisionです。）についての話を聞いた。講師の問いかけに意欲的に答える児童の姿が見られた。





事後・振り返り

自分たちの発想を生かして自由に考えた発明品について、実際にあるものであるかのように発表することを通して、児童は物事を生み出すことの楽しさを感じていた。

高専の学生の生活や高専で大切にされている考え方に触れることによって、児童は将来の選択肢について考えを広げ、進路について前向きな気持ちをもつことができていた。

成果

・児童が「環境」「防災」の社会問題を正しく理解し、自分の事として捉えることができた。その社会問題を解決するために、身近な川や上水を清掃しようと考えたり、断水した想定で炊き出し体験を行ったりすることで、自分たちにできることを考え、実践する態度が育つとともに、地域との連携の大切さを肌で感じることができた。
・「環境」、「防災」、「キャリア」の視点で講演や交流、ワークショップなど様々な体験活動を通して、児童が自ら課題を発見し、社会問題を解決しようとする力が身に付いた。自分たちのアイデアを生かし、協力しながら何かを楽しく生み出す体験を通して、自分の夢や将来について考えるよい機会となった。

